

ブロック技術提案会について

平成27年度補正予算「『革新的技術開発・緊急展開事業』に係るブロック技術提案会」の開催及び一般傍聴について

農林水産省は、平成 27 年度補正予算「革新的技術開発・緊急展開事業」の推進のため、現場ニーズ及び研究機関が有する技術シーズを聴取することを目的としたブロック技術提案会を、平成 28 年 1 月 21 日（木曜日）から全国 9 ブロックで順次開催いたします。

本提案会は公開です。ただし、カメラ撮影は冒頭のみ可能です。

1. 概要

TPP の大筋合意により、政府が決定した「総合的な TPP 関連政策大綱」では、攻めの農林水産業への転換として、国際競争力のある産地イノベーションの促進が早急に求められていることから、農林水産省では、平成 27 年度補正予算により革新的技術開発・緊急展開事業（以下、「事業」という。）を推進し、（ア）地域の競争力強化を速やかに進めるための、生産現場における先進技術を組み合わせた革新的技術体系の実証研究・普及の支援、（イ）将来に向けての競争力の飛躍的な向上を図るための次世代の技術を生み出す研究開発を実施することとしています。

技術提案会は、本事業の実施に向けて、生産現場が抱えるニーズと、研究機関が有する技術シーズの提案を聴取するとともに、現場ニーズと技術シーズのマッチングを促進するため開催するものです。

なお、今回の提案会資料については、提案会終了後に以下の URL にて公開いたします。

URL : <http://www.s.affrc.go.jp/docs/kk27/index.htm>

2. 開催日時及び場所

平成 28 年 1 月 21 日（木曜日）～1 月 29 日（金曜日）

- ・ 農業分野：全国 9 ブロックの会場
- ・ 林業分野：全国ブロック（東京会場）
- ・ 水産業分野：全国ブロック（東京会場）

（注）技術提案会の日時及び場所については、別添 1「平成 27 年度補正予算『革新的技術開発・緊急展開事業』に係るブロック技術提案会開催日程」を御参照ください。

3. 主な議題

- (1) 管内都道府県から、地域農林水産業の競争力強化の方向性や現場ニーズに関する説明
 - (2) 技術を提案した研究者からの提案技術の説明
 - (3) 技術提案者は、発表後、順番に会場内に設けるコミュニケーションゾーンに移動していただき、参加者（管内都道府県、他の研究機関等）と自由に意見交換を行います。
- (一定の時間でコミュニケーションゾーンの入れ替えを行います。)

4. 技術提案の方法

本提案会では、研究機関、民間企業、大学等から農林水産業の競争力強化のための技術シーズを募ります。提案方法の詳細は別添2『革新的技術開発・緊急展開事業』に係るブロック技術提案会提案申込要領」及び以下のURLを御参照ください。提案申込締切、資料等の提出締切、提案の申込先等は、会場によって異なりますので御注意ください。また、林業分野、水産業分野については東京での開催となります。

URL : <http://www.s.affrc.go.jp/docs/kk27/index.htm>

なお、上記URLには、平成27年12月24日開催の本事業の全国説明会の資料を掲載していますので、御参照ください。このうち、「今後の競争力強化に向けた技術戦略（素案）」は、本事業の対象とすることが適当と考えられる研究項目の現時点での素案であり、ブロック技術提案会等での提案等を基に更に検討していくこととしています。

5. 傍聴申込方法

(1) 申込方法

傍聴を希望される方は、インターネット又はFAXにて以下の申込先に、傍聴希望のブロック又は林業、水産業、御氏名(フリガナ)、御連絡先(メールアドレス、電話番号、FAX番号)、勤務先・所属団体等を明記の上、お申込みください。なお、お電話でのお申込みは御遠慮ください。

<インターネットによるお申込先>

URL : <https://www.contact.maff.go.jp/affrc/form/58ba.htm> (各会場共通です)

<FAXによるお申込先>

各会場によって申込先が異なりますので、別添3『革新的技術開発・緊急展開事業』に係るブロック技術提案会傍聴申込要領」を御参照ください。

(2) 申込締切

各会場の申込締切については別添1を御確認ください。なお、傍聴希望者が定員になり次第、申込みを締め切らせていただきますので、あらかじめ御了承ください。(傍聴定員については、別添3を御参照ください。)

(3) 傍聴する場合の留意事項

傍聴に当たり、次の留意事項を遵守してください。これらが守られない場合は、傍聴をお断りすることがあります。

(2 / 4)

(ア)事務局の指定した場所以外の場所に立ち入らないこと。

(イ)携帯電話等の電源は必ず切って傍聴すること。

(ウ)傍聴中は静粛を旨とし、以下の行為を慎むこと。

- ・ 発言者に対する賛否の表明又は拍手
- ・ 傍聴中の入退席（ただし、やむを得ない場合を除く。）
- ・ 報道関係者の方々を除き、会場においてのカメラ、ビデオ、ICレコーダー、ワイヤレスマイク等の使用
- ・ 新聞、雑誌、その他議案に関連のない書類等の読書
- ・ 飲食及び喫煙

(エ)鉄砲刀剣類その他危険なものを会場に持ち込まないこと。

(オ)その他、事務局職員の指示に従うこと。

6. その他

本事業の公募は平成28年2月上旬に行う予定です。

(参考)

平成27年12月18日付けプレスリリース「平成27年度補正予算『革新的技術開発・緊急展開事業』に係る全国説明会」の開催及び参加者の募集について」

<http://www.s.affrc.go.jp/docs/press/151218.htm>

7. 報道関係者の皆様へ

報道関係者で取材を希望される方は、別に席を御用意しておりますのでお申込みいただく必要はありません。

ただし、御用意した席が満席となった場合は、お立ちいただくこととなりますので、その場合は御容赦ください。

また、当日は会場入口の受付で記者証等の身分証を御提示していただきますのであらかじめ御承知願います。

<添付資料>

- ・ 別添1 平成27年度補正予算「革新的技術開発・緊急展開事業」に係るブロック技術提案会開催日程
- ・ 別添2 「革新的技術開発・緊急展開事業」に係るブロック技術提案会提案申込要領
- ・ 別添3 「革新的技術開発・緊急展開事業」に係るブロック技術提案会傍聴申込要領
- ・ (参考)「革新的技術開発・緊急展開事業」の概要

お問い合わせ先

農林水産技術会議事務局研究企画課

担当者：川名、古賀（農業分野）

代表：03-3502-8111（内線 5841）

ダイヤルイン：03-3501-4609

FAX：03-3507-8794

農林水産技術会議事務局研究開発官（基礎・基盤、環境）室

担当者：柴田（林業分野）

代表：03-3502-8111（内線 5870）

ダイヤルイン：03-3502-0536

FAX：03-3502-4028

農林水産技術会議事務局研究開発官（基礎・基盤、環境）室

担当者：齊藤（肇）（水産業分野）

代表：03-3502-8111（内線 5870）

ダイヤルイン：03-3502-0536

FAX：03-3502-4028

当資料のホームページ掲載 URL

<http://www.maff.go.jp/j/press/>

**平成27年度補正予算「革新的技術開発・緊急展開事業」に係る
ブロック技術提案会開催日程**

ブロック	開催日時	開催場所	傍聴申込締切	提案申込締切	提案資料及び プレゼン資料 の締切
■農業					
北海道ブロック(札幌会場)	平成28年1月28日(木) 13:00~17:00	会場名:北海道建設会館 9階大ホール 住 所:札幌市中央区北4条西3丁目1番地	1月25日(月) 12時まで	1月21日(木) 12時まで	1月25日(月) 12時まで
東北ブロック(仙台会場)	平成28年1月29日(金) 10:30~17:00	会場名:宮城県管工事会館 9階大会議室 住 所:宮城県仙台市青葉区本町3丁目5番2号	1月25日(月) 12時まで	1月22日(金) 12時まで	1月25日(月) 12時まで
関東ブロック(さいたま会場)	平成28年1月26日(火) 13:00~17:00 平成28年1月27日(水) 10:00~16:00	会場名:さいたま新都心合同庁舎2号館5階 共用大研修室5A 住 所:埼玉県さいたま市中央区新都心2-1	1月22日(金) 12時まで	1月19日(火) 12時まで	1月20日(水) 12時まで
北陸ブロック(金沢会場)	平成28年1月28日(木) 10:00~17:00	会場名:金沢広坂合同庁舎1階 共用大会議室 住 所:金沢市広坂2-2-60	1月25日(月) 12時まで	1月21日(木) 12時まで	1月25日(月) 12時まで
東海ブロック(名古屋会場)	平成28年1月25日(月) 10:00~17:00	会場名:桜華会館 南館3階「桜花の間」 住 所:名古屋市中区三の丸1丁目7-2	1月21日(木) 12時まで	1月18日(月) 17時まで	1月20日(水) 12時まで
近畿ブロック(京都会場)	平成28年1月29日(金) 13:00~17:00	会場名:ホテルルビノ京都堀川 平安の間(地下1階) 住 所:京都市上京区東堀川通下長者町下ル	1月25日(月) 12時まで	1月22日(金) 12時まで	1月25日(月) 12時まで
中国四国ブロック(岡山会場)	平成28年1月22日(金) 13:00~16:30	会場名:岡山第2合同庁舎2階共用会議室A~C 住 所:岡山市北区下石井1丁目4番1号	1月19日(火) 12時まで	1月15日(金) 12時まで	1月19日(火) 12時まで
九州ブロック(福岡会場)	平成28年1月21日(木) 13:00~17:00	会場名:九州大学西新プラザ2階 会議室A・B 住 所:福岡市早良区西新2-16-23	1月18日(月) 12時まで	1月14日(木) 17時まで	1月18日(月) 12時まで
沖縄ブロック(那覇会場)	平成28年1月26日(火) 13:00~17:00	会場名:内閣府沖縄総合事務局(那覇第2地方合同庁舎2号館) 2階 共用会議室D・E 住 所:沖縄県 那覇市 おもろまち 2-1-1	1月22日(金) 12時まで	1月19日(火) 12時まで	1月22日(金) 12時まで
■林業					
全国ブロック(東京会場)	平成28年1月27日(水) 13:30~17:15	会場名:TKP新橋ビジネスセンター 住 所:東京都港区新橋4-24-8 2東洋海事ビル 2F	1月22日(金) 12時まで	1月20日(水) 12時まで	1月22日(金) 12時まで
■水産業					
全国ブロック(東京会場)	平成28年1月26日(火) 13:30~17:15	会場名:TKP新橋ビジネスセンター 住 所:東京都港区新橋4-24-8 2東洋海事ビル 2F	1月22日(金) 12時まで	1月20日(水) 12時まで	1月22日(金) 12時まで

平成27年度補正予算「革新的技術開発・緊急展開事業」に係る ブロック技術提案会 提案申込要領

○関東ブロック(さいたま会場)	
日時	平成28年1月26日(火曜日) 13:00~17:00、1月27日(水曜日)10:00~16:00
場所	会場名:さいたま新都心合同庁舎2号館5階 共用大研修室5A 住所:埼玉県さいたま市中央区新都心2-1 電話:048-740-0432(生産技術環境課) アクセス:JR京浜東北線・高崎線・宇都宮線「さいたま新都心」駅下車又はJR埼京線「北与野」駅下車
提案申込方法	提案を御希望される方は、様式1-1の提案申込書に御記入の上、FAXにてお申し込みください。なお、お電話でのお申し込みは御遠慮ください。 〈FAXによるお申込先〉 送付先:関東農政局生産部生産技術環境課 山本宛 FAX:048-601-1431
提案申込締切	平成28年1月19日(火曜日)12時(必着)
提案資料及びプレゼン資料の作成	提案の申し込みをいただいた方は、様式2の提案資料の作成をお願いいたします。(できるだけイメージ図も添付してください) また、会場で御説明をいただく提案者の方は、提案内容の理解を深めるために、プレゼン資料を別途作成いただくことが可能です。なお、提案資料は公表資料として取扱い、会場傍聴者等に配布いたしますが、プレゼン資料は、会場傍聴者への配布は致しません。
提案資料及びプレゼン資料の提出	提案資料及びプレゼン資料については、以下に定めた締切日までに、メールで資料データ(事務局で通し番号等を追記するため、パワーポイント)を送付してください。提出先のメールアドレスについては、提案のお申込みをいただいた方に別途連絡いたします。 〈提案資料及びプレゼン資料の提出締切〉 平成28年1月20日(水曜日)12時(必着)
提案内容の説明	提案内容の説明を希望される方には、当日御説明をお願いする予定ですが、時間の都合上、提案者が多数の場合は、当日の説明者を抽選により決定させていただき、当日の説明の可否を事前にメールで御連絡させていただきます。 なお、提案資料については、説明の可否に関わらず会場傍聴者等に配布させていただきます。

留意事項	<p>技術提案会(さいたま会場)では林業分野及び水産業分野の技術提案は対象としておりません。林業分野及び水産業分野の技術提案については、それぞれの提案申込要領をご覧ください。</p> <p>プレゼンの希望が多数の場合は、ご希望に添えない場合がありますので、あらかじめご了承ください。</p> <p>同一の技術提案のプレゼンを、複数のブロックで行うことはできません。</p>
会場の選択	<p>原則として、提案技術の活用が想定される地域に該当する会場にお申込みください。</p>

革新的技術開発・緊急展開事業に係る技術提案申込書 **農業**

1 提案者

- ① 研究機関等名:
- ② 所属・役職:
- ③ 氏 名:
- ④ 所在地:
- ⑤ 電話連絡先:
- ⑥ メールアドレス:

2 技術提案の内容

- ① 対象品目(林業分野及び水産業分野は対象外です)
- ② 提案技術の概要(100字程度)
- ③ 現時点で、生産現場等での実証研究(別添資料のSTEP2)が可能か
はい ・ いいえ (→④へ)
- ④ ③で「いいえ」の場合、研究室やラボレベルでの研究(別添資料のSTEP1)が
あと何年程度必要か
年程度

3 提案内容のプレゼンの希望(いずれかに「○」をしてください)

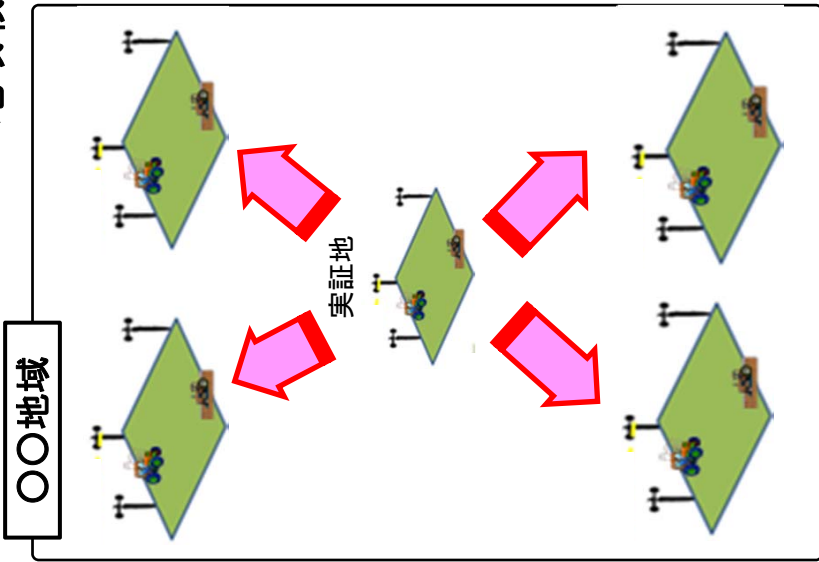
希望する 希望しない(資料配付のみ)

【ご留意いただきたい事項】

- ※1: 農業分野の技術提案会では林業分野及び水産業分野は対象としていません。
- ※2: プレゼンの希望が多数の場合、ご希望に添えない場合がありますのであらかじめご了承ください。
- ※3: 同一の技術提案のプレゼンを、複数のブロックで行うことはできません。

(別添資料)

地域戦略プロジェクトにおける研究のステージ(イメージ)

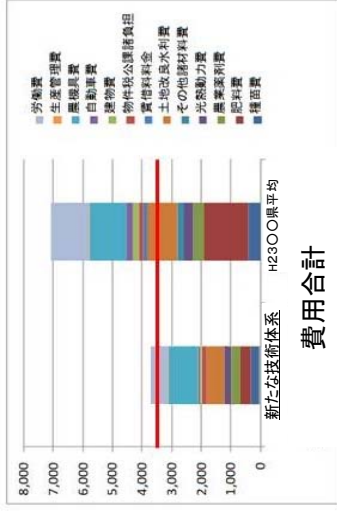


Step4

研究成果を地域戦略で定めた地域全体に普及

Step3

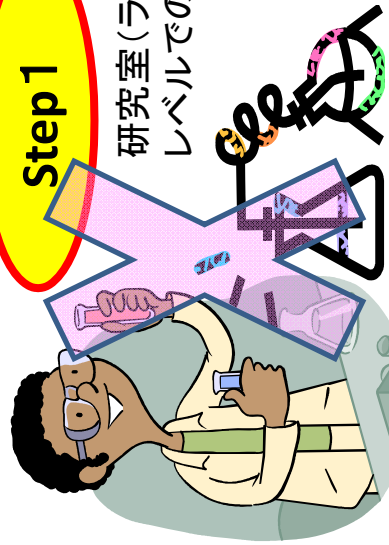
研究成果としてコスト削減(所得向上)を達成できる技術体系を確立



**地域戦略プロジェクトの
実証研究型は原則Step2
以上で実施**

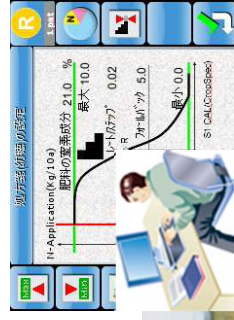
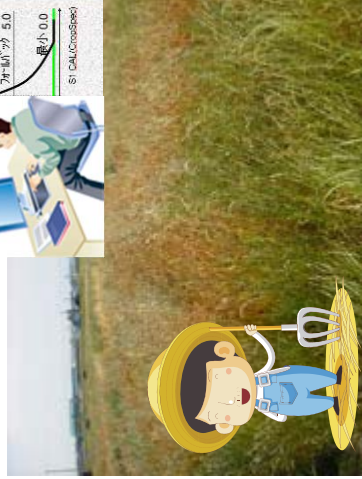
Step1

研究室(ラボ)や試験場レベルでの研究



Step2

経営体レベルでの実証研究



番号:事務局が記入

提案者名:〇〇研究所 〇〇部 〇〇〇〇

提案事項:

提案内容

*** 本紙+イメージ図1枚まで**

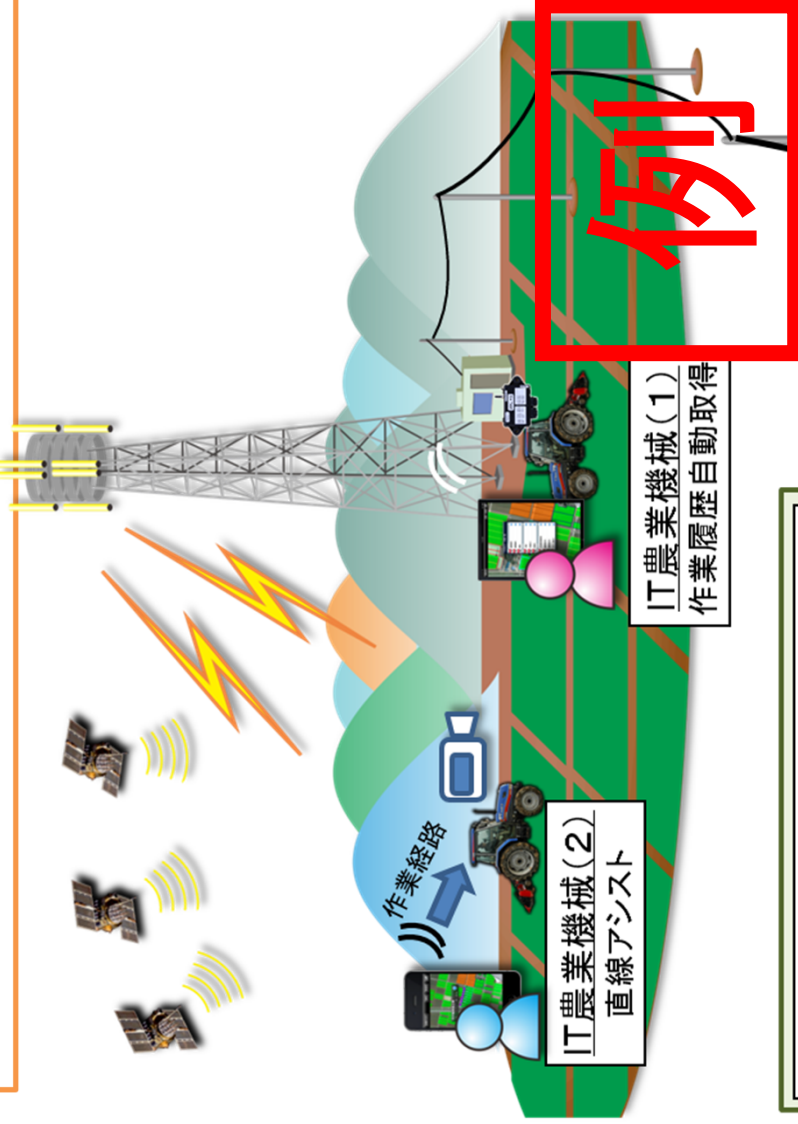
現時点で生産現場等での実証研究(別紙のSTEP2)が可能か: はい・いいえ
いいえの場合、研究室やラボレベルの研究(別紙のSTEP1)があと何年程度必要か: 〇年程度

期待される効果

想定している研究期間:〇年間

研究期間トータルの概算研究経費(千円):
(うち研究実証施設・大型機械の試作に係る経費(千円):)

IT農機を活用した大規模営農支援システム



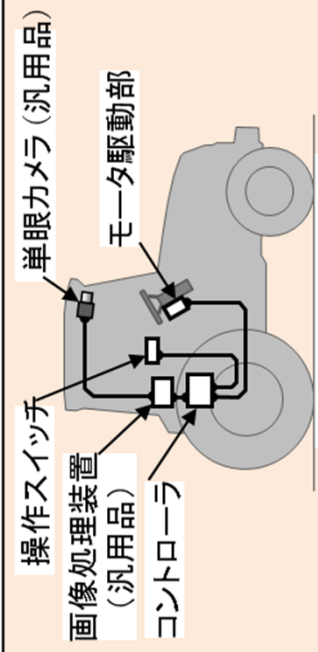
IT農業機械(1)

GPS、通信インターフェース、I/O等からなる「情報化装置」を、トラクタ等の農業機械に搭載し、作業日時、位置情報、資材投入量、収穫量などを逐次取得してオペレータの携帯端末等に自動的に蓄積する。



IT農業機械(2)

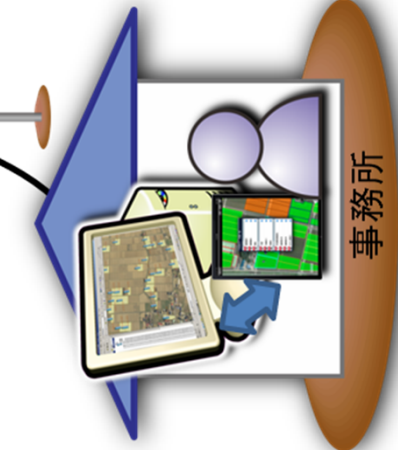
画像処理システムで耕うん跡やマーカ跡などの行程作業跡を検出し、直線的に追従走行する。



インターネット

営農管理支援ソフトウェア (FARMS)

GISエンジンとデータベースを連動させたソフトウェアで、作業履歴の自動生成、出荷農産物と作業履歴の連動、資材投入の事前確認、効率的操作経路生成などの機能を持つ。
 基本情報の集約的な構築、管理、蓄積データの運用など、全ての機能を持つ管理者バージョンと作業履歴収集・入力に限定した端末バージョンがあり、利用場面に応じて使い分けができる。



平成27年度補正予算「革新的技術開発・緊急展開事業」に係る ブロック技術提案会 傍聴申込要領

○関東ブロック(さいたま会場)	
日時	平成28年1月26日(火曜日) 13:00~17:00、1月27日(水曜日)10:00~16:00
場所	会場名:さいたま新都心合同庁舎2号館5階 共用大研修室5A 住 所:埼玉県さいたま市中央区新都心2-1 電 話:048-740-0432(生産技術環境課) アクセス:JR京浜東北線・高崎線・宇都宮線「さいたま新都心」駅下車又はJR埼京線「北与野」駅下車
傍聴定員	100名を予定しております。
傍聴申込方法	インターネットでお申し込みされる方は、申込フォームに必要事項をご入力の上、お申し込みください。FAXでお申し込みされる方は、傍聴申込FAX送信票(別紙)に必要事項をご記入の上、お申し込みください。なお、お電話でのお申し込みはご遠慮ください。 <インターネットによるお申込先> https://www.contact.maff.go.jp/affrc/form/58ba.htm <FAXによるお申込先> FAX送付先:関東農政局生産部生産技術環境課 山本 宛 FAX番号:048-601-1431 ・車椅子の方は、その旨をお書き添えください。また、介助の方がいらっしゃる場合は、その方のお名前も併せてお書き添えください。
傍聴申込締切	申込締切は、平成28年1月22日(金曜日)12時必着とします。また、傍聴希望者が定員になり次第、申込みを締め切らせていただきますので、あらかじめ御了承ください。なお、座席に余裕がある場合は、当日の申込でも傍聴可能です。

【各会場共通:傍聴する場合の留意事項】

傍聴に当たり、次の留意事項を遵守してください。これらを守られない場合は、傍聴をお断りすることがあります。

- (ア)事務局の指定した場所以外の場所に立ち入らないこと。
- (イ)携帯電話等の電源は必ず切って傍聴すること。
- (ウ)傍聴中は静粛を旨とし、以下の行為を慎むこと
 - ・発言者に対する賛否の表明又は拍手
 - ・傍聴中の入退席(ただし、やむを得ない場合を除く。)
 - ・写真カメラ、ビデオカメラ等による撮影、テープレコーダー等による録音(ただし、事務局が特に認めた場合を除く。)
 - ・新聞、雑誌、その他議案に関連のない書類等の読書
 - ・飲食及び喫煙
- (エ)鉄砲刀剣類その他危険なものを会場に持ち込まないこと。
- (オ)その他、事務局職員の指示に従うこと。

平成 27 年度補正予算「革新的技術開発・緊急展開事業」に係るブロック技術提案会
傍聴申込 FAX 送信票

■傍聴を希望する提案会会場一箇所（関東は 2 箇所まで）に○をつけて下さい。

<農業分野>

北海道・東北・関東（1/26）・関東（1/27）・北陸・東海・近畿・中国四国・九州・沖縄

<林業分野>

全国

<水産業分野>

全国

（フリガナ）

1. 氏 名

2. ご連絡先

メールアドレス

電話番号／FAX 番号

3. 勤務先所属団体等名

4. 勤務先住所

〒 ー

5. 備考

※ 申込みいただいた個人情報につきましては、農林水産省の研究事業に関連する情報提供等に利用する場合があります。あらかじめご了承下さい。

地域農業の競争力強化の方向性 【〇〇県】

記載例

1 最新の技術を活用し、当面確立すべき技術体系

対象品目 (経営類型)	競争力強化の方向性(地域戦略の方向性)、現場ニーズ	必要となる技術体系
カンキツ類 (温州ミカン)	島嶼部を多く抱える我が県では、温州ミカンを中心としたカンキツ類の栽培が盛んだが、近年、高齢化が進み、生産量・販売額が低迷。このため、輸出の拡大や機能性を付与した高品質果実の生産を推進し、生産量・販売額を〇割程度増加させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・輸出を促進するための技術体系 ・機能性成分β-クリプトキサンチンを高含有する果実を安定して供給可能な栽培・流通技術体系
水稻	コメの消費量の減少や価格の低迷が続いているため、現行より4割以上のコスト低減を実現可能な技術体系を導入し、農家所得の確保を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・多収品種の導入、乾田直播技術、多圃場管理の効率化、ロボットやICTを活用した省力化技術などを組み合わせた、超低コスト生産体系
酪農	牛乳消費量の伸び悩みや乳価の低迷などの影響を受け、畜産農家の高齢化、集約化が急速に進んでおり、このため、担い手酪農経営者の労働時間を現行の〇割程度まで下げ、経営が維持・拡大できる環境整備が必要。	労働時間を大幅に削減可能な機械化(ロボット等)一貫体系

※ 競争力強化の方向性や、技術体系の記述に当たっては、可能な限り、数値目標を記載願います。
現時点で数値目標の記載が困難な場合は、定性的な記述でも結構です。

2 次世代の先導的技術に対する期待・意見等

対象品目 (経営類型)	将来に向けて競争力の飛躍的な向上を図るために必要な技術	必要な研究課題の内容 (開発の内容を具体的に想定している場合は記載して下さい)

【担当部署】

担当部署	電話番号
〇〇県 農林水産部 〇〇課	

地域林業・水産業の競争力強化の方向性 【〇〇県】

記載例

1 最新の技術を活用し、当面確立すべき技術体系

対象品目等 (任意のキーワード)	競争力強化の方向性(地域戦略の方向性)、現場ニーズ	必要となる技術体系
林業(木材安定供給)	〇〇県では県内の木材生産量を〇〇年度の〇〇万 ³ m ³ から〇〇年度までに〇〇万 ³ m ³ に増加させることを目標としている。そのためには、県内の製材・合板等の需要に応じて、原木を安定供給を必要とする。これを実現するため、川下の需要に即した安定的な原木供給を可能とする機動的なシステムを構築する。	<ul style="list-style-type: none"> ・原木生産の需給情報を把握、共有化するICT活用技術
林業(生産性向上)	本県の森林蓄積は〇万 ³ m ³ で、年間成長量は〇〇にのぼっている。しかし、現在の木材生産量は〇〇と成長量に比べても低位である。持続的な林業経営のためには、輸入材に対抗可能な木材生産基盤を構築することが必要である。そのため、木材の伐採、搬出の生産性の向上、再生林の低コスト化等を進めることによって、木材生産コストを〇割程度削減することを目標としている。	<ul style="list-style-type: none"> ・伐採木運搬や造林用ロボットの開発 ・伐採から苗木植栽までを一体的に行う作業システムの体系化 ・高品質な種苗を安定的に生産する技術
水産(ブリ)	本県では、昨年の養殖ブリの輸出額は〇〇億円であったところ、輸出先国における関税の即時撤廃を好機として、5年後に倍増させることを目標としている。そのために必要な生産技術基盤として、天然に依存しない養殖種苗(モジャコ)をオンデマンドで安定供給する技術及びフィレーの付加価値向上に資する最新の鮮度保持技術を体系化することにより、養殖ブリの周年安定出荷を実現するとともに、冷凍輸送中の血合肉の褐変による品質低下を防止する。	<ul style="list-style-type: none"> ・養殖用ブリ稚魚を年間10ヵ月以上にわたり、オンデマンドで供給する技術 ・水揚時ストレスによる品質低下魚を半減させる活じめ技術 ・血合肉褐変等による輸送中の品質低下魚を半減させる技術

※ 競争力強化の方向性や、技術体系の記述に当たっては、可能な限り、数値目標を記載願います。現時点で数値目標の記載が困難な場合は、定性的な記述でも結構です。

2 次世代の先導的技術に対する期待・意見等

対象品目等 (任意のキーワード)	将来に向けて競争力の飛躍的な向上を図るために必要な技術	必要な研究課題の内容 (開発の内容を具体的に想定している場合は記載して下さい)

【担当部署】

担当部課名	電話番号
〇〇県 農林水産部 〇〇課	